

高岡ロータリークラブ



2025/2/13

会長／田中 哲 幹事／山口 洋祐

No.31

例会日：木曜日 12:30～13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.68

司会 車会場監督 点鐘 田中 会長

国歌斉唱

ロータリーの目的／四つのテスト

ゲスト並びにビジター紹介

■米山奨学生

バタラチ アマルバヤスガランタ 君

会長挨拶／報告

■誕生祝

駒井 宏 さん (2/16・70才)

幹事報告

■配布⇒ロータリーの友 2月号

委員会報告

■ロータリーの友 2月号紹介 (安田会員)



ニコニコBOX 7件 27,000円



田中会長／5月6日の利長シンポジウムですが、直木賞作家安倍龍太郎さん、前田家19代ご当主、角田高岡市長、皆さんの内諾をもらいました。大川地域発展委員長の夢が実現します！

才高副会長／茶谷さん、卓話よろしくお願ひします。

皆出席いただき、ありがとうございました。

山口幹事／茶谷さん、本日よろしくお願ひ致します。

谷道君／茶谷さんの卓話楽しみにしております。

室崎君／先週の麻雀大会、久しぶりでしたが楽しい一時でした。その上に2位入賞のおまけ付きで有難うございました。

柳澤君／先週、麻雀大会参加いただき、ありがとうございました。楽しいひと時を過ごせました。

山岡君／いよいよ、明日は結婚記念日です。高岡ロータリー屈指の愛妻家として、最高の記念日をしつらえます。

<プログラム> 会員卓話

『2000年とやま国体』

茶谷修治会員

私は石川県七尾市の出身です。小学生の頃は相撲少年で県大会優勝など実力はありましたが、小学6年時から中学校の部活に入部しバレーボールを始めました。高校では石川県選抜の選手として京都国体に出場し、大学ではビーチバレーにもチャレンジして全国ベスト4の戦績を残しました。

現役は大学までと決め、1993年に北陸電力に入社し、先輩に誘われ9人制バレーボール部に参加。軽い気持ちで続けていましたが、1995年に2000年国体の富山県開催が決定し、当社が富山県強化指定チームに指定され、再び競技に関わることとなります。結果、44歳まで現役を続け、国体には選手として10回出場するなど、私にとって国体は縁深いものとなりました。

国体は、戦後1946年に「国民に勇気と希望を与える」ことを目的に始まった国内最大の総合スポーツ大会で、都道府県持ち回りで毎年開催しています。1948年の第3回大会から「都道府県対抗方式」が導入され、1964年の第19回大会以降、開催地の総合優勝(天皇杯獲得)が定着しています。2000年とやま国体も例外なく富山県が優勝しています。

なぜ開催地の優勝が続くのか。国体は、出場者への「参加得点」と上位入賞者への「競技得点」の合計で争われる中、開催県は地方予選がなく国体に出場できるため「参加得点」で優遇されます。さらに「競技得点」獲得のために、開催県による有力選手の補強が常態化しています。過去には国体規程に反して、自県に居住実態のない選手を出場させるなど、開催地の勝利至上主義が長年物議を醸しています。

さらに大会運営や競技施設の整備など、開催県の莫大な財政負担も問題視されています。2024年から「国民体育大会」は「国民スポーツ大会」に名称が変わるとともに、今後の大会のあり方について議論されています。

さて、当社バレーボール部は、2000年とやま国体優



勝を目標に 1995 年にスタートを切りました。週 6 日の練習、休日は全国行脚と過酷な日々を過ごし、チームも私以外の選手は全て補強という抜本的改革を掲げますが、選手獲得や競技力向上は簡単なことではありませんでした。全国トップチームからアドバイザーを招聘した 1998 年に国体初出場を果たしますが初戦敗退。アドバイザーは我々に試合の勝ち方を徹底的に植え付け、チームスタイルを確立して臨んだ翌 99 年の熊本国体では準優勝し、一気に実力が開花します。全国や地元からの注目がプレッシャーとなり、チームは一時停滞しますが、原点に立ち返り挑んだ 2000 年とやま国体では決勝に進み、相手は前年の決勝で敗れた兵庫県。大接戦の末リベンジを果たし、悲願の優勝を掴み取りました。優勝決定の瞬間はコートに倒れ込み、単なる喜びというより「与えられた 5 年間のミッションをやり遂げた」という達成感が蘇ります。

現在、日本スポーツ協会を中心に国民スポーツ大会の改革案を取りまとめているますが、足元では少子化等により競技人口減少や指導者不足が顕著であり、中学校では全国大会が廃止となる競技もある中、より選手や指導者の目線に立った議論を期待します。

改めて国スポの存在意義が問われる時代に入っている中、日本スポーツの競技力向上を支え、選手にとって意義のある国民スポーツ大会であり続けることを願っています。